

けれどまたふたたび
 蘇へつてまゐりました。
 今夜、騒がしく降る
 雨のなかの
 はじめての春雷の音につれて。

海外での小詩

一、ジブラルタル沖

眠さうな
 西班牙の丘々の彼方
 黄なる霧のなかに
 日は沈んで行く。

紫水晶の海のうへに
 空は露けき星を
 ちりばめてすがすがしい。

けれど、わたしの

愛人の住む都では今

空に雲もなく

眞晝が輝いてゐるだらう。

あの人のためには、

光の幸福。

わたしのためには、

やさしい絶望。

二、アルジェリ沖

おゝ、愛も涙もほしくない。

火でもつて夜を

乾かす夢もほしくない、

望みによつて悩まされずに

心軽くあなたの巡禮の
途みちをお行きなさい。

一月の間、一年の間、

わたしのことをお忘れなさい。

けれど、おゝ、愛いとしい人よ、

わたしのことを考へて下さい

海のうへにさす

ふいの日光のやうに

思はぬ美が燃えあがるその時には

三、ネーブルス

ニシイダとプロシイダとは、

光のなかで笑つてゐる。

カプリは

高くのぞいて咲く露けき花、

ポシリポは

膝をついて、輝く海を眺めてゐる。

ネーブルスは、

できるだけその何萬といふ

屋根々々をくつつけてゐる。

山の頂きのまはりには、

煙の幕がかかつてゐる——

あゝ、神が伊太利を

お造りになつた頃は、

華やかでお若かつたのだ！

四、カブリ島

見てゐるうちにあまりに美が

偉おほきくなつて行く時、

どうやつてわたしはその痛みを

安らげるであらう。

なぜなら、

美は苦惱より立ちまさつて

心を破るものだから。

今、島々を

花のやうに胸に飾る

夢みがちな海をわたしが眺めてゐると、

全世界に於ての

たつた一つの聲が

わたしに安息を

與へてくれることができた。

五、アマルヒでの夜の唄

わたしは星ちりばめた空に訊ねた。

なにをわたしは

愛人に與へるべきであらうか。

空は沈黙をもつて答へてくれた。

うへにひろがる沈黙をもつて、

わたしはほの暗い海に訊ねた。

その海へは

漁夫たちが降つて行く。

海は沈黙をもつて答へてくれた。

したにひろがる沈黙をもつて。

おゝ、わたしはあの人に

涙を興へることができた。

または、唄を興へることができた。

けれど、わたしの一生を通じて

どうしてまあ沈黙を興へ得るであらうぞ？

六、ペースタムの廢墟

寺が横つてゐる窪地に

沼草が花をつけて

おどろに茂つてゐる。

小鳥たちの

小さな唄だけが

おだやかな時間々々を

つないである。

かくてたうとう

わたしの心のうへで

恣ままで華やかな

市のやうに、

夜はゆるやかな白い星が

通り過ぎるであらう。

また晝は、翼^{つばさ}早い褐色の

192

193

小鳥が掠め行くであらう。

七、ローム

おゝ、ロームの屋根々々のうへに

のぼつて来る月。

また、ほの暗い圓屋根をめぐつて

日暮れに飛びまはる燕たち。

おゝ、たたんだ翼で過ぎる

節度ある夜明け――

どうしてまあわたしは、

それらのものを

なんらの思ひ出なしに

過ぎ行かしめよう！

八、フローレンス

鐘の音がアルノのうへに鳴る。

真夜半、長い長いその響き。

ふるえる闇のなかでここに

わたしは時を怖れてゐる。

おゝ、灰色の鐘よ、

響くことをやめておくれ。

時はわたしから

あまりに多くを奪ひ過ぎる。

そして、然も、岩や河には

永遠といふものを與へるのだもの。

九、ストレエザ

月は黄色い花のやうに

丘からのぼる。

湖は時刻を待つ

夢み勝ちの花嫁のやうだ。

美がわたしの心に

充ち溢れてしまった。

196

197

もうこれ以上は保てない。

いつばいである。

ちやど湖がいつばいであるやうに

岸邊から岸邊まで

なみなみと満ちてゐる。

昔の唄

198

ヘリオトロップやバラの
香氣のさど波が
風のない時、花園に漂つて
わたしたちの方へ來たり
わたしたちの方から逃げたり
だれもその行衛に

199

氣づかないやうに、

昔の唄が

わたしの心のなかに漂ふ
然もすこしのあとさへ、ひかずに
まるで風にはこばれる
薫香のやうに
わたしから逃げて行つてしまふ。

けれど、唄が、

漂つてゐる瞬間には、

もう二度と返らぬ

遠い昔の

笑ひや苦しみを

わたしは思ひ出す。

そして わたしは

月からこぼれ落ちて

暗い湖のうへに散り輝く

光の花びらのやうな

あまたの唄を

捕へようと試みるのだが、

唄はみんな漂ひながら

逃げて行つてしまふ

だつて、だれが、

青春と、香氣を

あるひは月の黄金こがねを
握り得るであらう？

最 後

云ひ得なかつた
すべてのこと
なし得なかつた
すべてのこと

202

それらは遂に
太陽のかけ
いづこの所かで
わたしたちを待つてゐる。

203

絶望に破れた
すべての心こそ
なんらの苦痛なく
わたしたちのものとなる。

わたしたちは

雨の晴れた後

花をつむ少女たちのやうに

氣輕にそれを手にとらう。

そして遂に

わたしたちのものと

なつてしまつた時

たぶん空も

わたしたちのためには

みづからを開かぬであらう。

また、呼びかけても

天國はそこにないであらう。

水蓮

もしもあなたが

午後の日かげのなか

山々にかこまれた
ほの暗い湖のうへに
浮んでゐた

あの水蓮の花を
忘れたのなら、

もしもあなたが
あの水蓮の花の
しつとりとした

眠りを誘ふ香氣を
忘れたのなら、

あなたは歸つて
行くことができる。

然も

おそれることなしに。

けれど、

もしもあなたが
あの水蓮の花を
思ひ出すのなら
遠く離れて
いくつかの湖のある
大平原に
いつまでも
去つておしまひなさい。

そこでは
日の暮れ方に
あなたは近く
水蓮の花のそばに
行きはしないであらう、
さうすれば
山々の影も
あなたの心のうへには
落ちはしないであらう。

知らないの？

その昔

いかにたくさん

あなたはわたしを

愛したかといふことを。

また、

あなたの愛は

210

211

その後とても

小さくもならず

去りもしなかつたことを

あなたはちつとも

知らないの？

その時

あなたは若かつた

誇りに充ちてもわたし

心いきいきとしてわたし
それを知るには
若すぎたのだつた。

けれど、運命は風
そして紅い木の葉は
遠く遠く

歲月の荒い時間のなかで
運命の前に散つて行く――

今や

わたしたちは

たまたししか逢はない

けれど、あなたの

話を聞いてゐると

なつかしいあなたよ

わたしはあなたの

心の秘密を知るのよ。

ひとりぼっち

戀はあるが

わたしはひとりぼっち。

じぶんのものにしたり

興へたりすることのできる

すべてのものもあるが――

また、あなたの

214

215

やさしさもあるが

をりをりのわたしは

生きることをも喜ばぬ。

わたしはひとりぼっち

あだかも

疲れた灰色の世界での

いちばん高い頂に

立つてゐるやうだ

わたしのまはりには
 たゞうづまく雪ばかり
 わたしのうへには
 はてもない空間が
 ひろがつてゐるばかり。
 隠されてしまつた大地と
 隠されてしまつた空と
 けれど、わたし自身の

精神こころの誇りは、
 すでに死んでしまつて
 もう淋しがない
 人たちの
 平和を慕ふことを
 さし控へさせるのだ。

大正十四年九月一日印刷
大正十四年九月十日發行

定價金 一圓

發行所 東京市神田區南神保町十六番地
交 蘭 社

電話四谷六八四二
振替東京四〇二七九

著者 水谷 まさる

發行者 飯尾 謙藏

東京市神田區南神保町十六

組版者 近 藤 喜七

芝區櫻川町二番地

印刷者 近 藤 喜七

芝區櫻川町二番地

取次店各地有名書店、品切の切は直接本社へ
御込申下さい。

西條 八著 詩集砂 ● 金

正價金一圓七十錢
送料書留金十八錢

水谷 まさる 著 詩集水色の花

正價金一圓五十錢
送料書留金十八錢

生田 春月 著 小曲 春の序曲

正價金九十錢
送料書留金十二錢

竹久 夢二 著 詩集 青い小徑

正價金九十錢
送料書留金十二錢

落谷 虹兒 著 私の詩畫集

正價金一圓五十錢
送料書留金十七錢

幡谷 正雄 譯 テニスン小曲集

正價金一圓十五錢
送料書留金十五錢

生田 春月 譯 ハイネン小曲集

正價金一圓十五錢
送料書留金十五錢

○此の外交蘭社發行の良書撰擇に必要なる目錄備えあれば御申込次第進呈いたします。
す。内容の良選、裝幀の美、價格の低廉、これ本社の三大標準であります。

發行所 東京市神田區表神保町十六番 振替口座東京四〇二七九番 交 蘭 社

▽落谷虹兒氏著

私の詩畫集

中形版特美箱入
正價金一圓五十錢
送料書留金十七錢

▽吾が國版畫界に一新基軸を畫せる虹兒氏が渡佛研究に上るに當り數千點の描畫中より數十葉を嚴選し之に著者が快心の作詩數十篇を交えて一卷となしたる眞に美しき詩畫集で有る。全頁三百に餘る本書は虹兒氏の版畫を賞翫するの傍ら詩壇に於ける獨自の地位を保つ多くの詩品を愛誦し以て心胸の自ら清粹を覺え綠蔭消夏燈下暖傍何れの時何れの所にも好適の良書として萬人の歡迎を恣にしてゐるものである。

發行所 東京市神田區表神保町十六番 振替口座東京四〇二七九番 交 蘭 社

▽水谷まさる氏著

テイスデール小曲集

袖珍形天金箱入
正價金一圓
送料書留十五錢

▽サラ・テイスデールは、北米の閨秀詩人として最も著名で有る。その詩は嵐にも折れぬ草花の如きかよわいなかの強さもあれば若い勇士の持つ剣の上にたなびく影の冷たさもある。又女性の持つやさしさと鋭い理性と燃えあがる熱情の各詩篇は、優れたる技巧と充分に驅使されたる言葉に由つて、その響きはあくまでも音楽的快調を失はない優雅曲麗なる好詩集である。詩を解する者の一讀を是非必要とする書である。

發行所

東京市神田區表神保町十六
振替口座東京四〇二七九番

交 蘭 社

576

360



終

